

演題『パーシャルデンチャーの維持装置について考える』

パーシャルデンチャーの補綴装置を行う上で、維持装置と咬合は、欠かすことの出来ない分野であります。

一般的な歯科技工の臨床において大切なことは、正確な口腔内の情報と明確な補綴診断の素材を適切に分析し、それを効率よく実践することとされている。その上で、担当歯科医師との十分なコミュニケーションを保ちつつ、患者の主訴と心理的な考察についても良く理解し、口腔周囲（表情・顔貌）等の観察も必要となります。最近の歯科技工、補綴装置の考え方も予後を考察したトータル技工、いわゆる顎口腔系から機能的および生理学的に調和する補綴装置が求められています。

臨床歯科技工も細分化し、トラディショナルな歯科技工をベースにしたデジタル歯科技工と共に多様化して、専門分科されてきている。ところが、それなりに進歩して歯科医学の発展のために望ましいことであるが、多過ぎる程の高度な情報が得られるため、どれが基本で大切なことか取捨選択することが、我々臨床家に求められています。そこで今回の生涯研修では、基本となるパーシャルデンチャーの製作ガイドラインについて、オンラインセミナーを通じて皆様とパーシャルデンチャーの維持装置と咬合について考察し、パーシャルデンチャーに関連した補綴装置を再確認して、時間の許す限りディスカッションも交えて、生涯研修の企画に沿った有意義で実りある会にしたいと思っております。

(公社) 日本歯科技工士会生涯研修認定講師

佐藤補綴研究室

佐藤幸司